

DRUG



INFORMATION

2016 No. 50

平成28年12月2日発行

1. 医薬品の採用・中止・変更について 1

(平成28年12月1日 薬事委員会結果報告)

- ①院内新規試用医薬品
- ②院内採用中止医薬品
- ③製剤変更医薬品
- ④銘柄変更医薬品
- ⑤院外採用中止医薬品

2. 新規採用医薬品情報 3

- 【院内新規試用医薬品】
- 【製剤変更医薬品】
- 【銘柄変更医薬品】

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp

①院内新規試用医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
イブプロフェン錠 100mg「タイヨー」	非ステロイド性抗炎症剤
ビムパット錠 50mg (ラコサミド)	抗てんかん剤
ビムパット錠 100mg (ラコサミド)	抗てんかん剤
リアルダ錠 1200mg (メサラジン)	潰瘍性大腸炎治療剤
リフキシマ錠 200mg (リファキシミン)	高アンモニア血症改善剤
ランタス XR 注ソロスター (インスリングルルギン)	インスリン製剤
ルミセフ皮下注 210mg シリンジ (プロダルマブ)	乾癬治療製剤

⇒ 平成 28 年 12 月 20 日より処方開始の予定です。

②院内採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
スピロペント錠 10 μ g (クレンプテロール塩酸塩)	気管支拡張剤・喘息治療剤
トスフロキサシントシル酸塩錠 150mg「タナベ」	ニューキノロン系抗菌剤
ポンタールカプセル 250mg (メフェナム酸)	非ステロイド性抗炎症剤
アレビアチン注 250mg (フェニトインナトリウム)	抗てんかん剤
アンスロビン P500 注射用 (乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ)	血液凝固阻止剤
献血ヴェノグロビン IH5% 静注 0.5g/10mL (人免疫グロブリン)	ヒト免疫グロブリン製剤
ヒューマリン N 注ミリオペン 300 単位 (インスリンヒト)	インスリン製剤

⇒ 院内の在庫がなくなり次第、処方中止とします。

③製剤変更医薬品

旧医薬品名 ⇒ 新医薬品名	(外):院外専用医薬品	薬品分類
オルメテック錠 10mg ⇒ オルメテック OD 錠 10mg ^(外)		アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤
オルメテック錠 20mg ⇒ オルメテック OD 錠 20mg		アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤
オルメテック錠 40mg ⇒ オルメテック OD 錠 40mg ^(外)		アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤
グルファスト錠 10mg ⇒ グルファスト OD 錠 10mg		インスリン分泌促進薬
リバロ錠 4mg ⇒ リバロ OD 錠 4mg ^(外)		HMG-CoA 還元酵素阻害剤
ゴナックス皮下注用 80mg ⇒ ゴナックス皮下注用 80mg(溶解液付)		前立腺癌治療剤
ゴナックス皮下注用 120mg ⇒ ゴナックス皮下注用 120mg(溶解液付)		前立腺癌治療剤
ヒュミラ皮下注 40mg シリンジ 0.8mL ⇒ ヒュミラ皮下注 40mg シリンジ 0.4mL		モノクローナル抗体

⇒ 旧製剤の在庫がなくなり次第、変更とします。

処方箋の薬品名を「～OD 錠(～錠変更可)」、「～0.4mL(～0.8mL 変更可)」と記載し、調剤薬局薬剤師の判断で疑義照会なしで従来の製剤でも調剤ができるように致します。

④銘柄変更医薬品

旧医薬品名 ⇒ 新医薬品名(会社名)	(外):院外専用医薬品	薬品分類
パキシル錠 5mg(GSK) ⇒ パロキセチン錠 5mg「アスペン」(アスペン) ^(外)		選択的セロトニン再取り込み阻害剤
パキシル錠 10mg(GSK) ⇒ パロキセチン錠 10mg「アスペン」(アスペン) ^(外)		選択的セロトニン再取り込み阻害剤
パキシル錠 20mg(GSK) ⇒ パロキセチン錠 20mg「アスペン」(アスペン) ^(外)		選択的セロトニン再取り込み阻害剤
ルナベル配合錠 LD(日本新薬) ⇒ フリウェル配合錠 LD(持田) ^(外)		月経困難症治療剤
セボフルラン吸入麻酔液「マイラン」(ファイザー) ⇒ セボフルラン吸入麻酔液「ニッコー」(丸石)		全身吸入麻酔剤
タキソテル点静注用 20mg(サノフィ) ⇒ ドセタキセル点静注 20mg/1mL「ヤクルト」(ヤクルト)		タキソイド系抗悪性腫瘍剤
タキソテル点静注用 80mg(サノフィ) ⇒ ドセタキセル点静注 80mg/4mL「ヤクルト」(ヤクルト)		タキソイド系抗悪性腫瘍剤
ミノフィット注 40mL シリンジ(テルモ) ⇒ ヒシファーゲン配合静注シリンジ 40mL (ニプロ)		肝臓疾患用剤・アレルギー用剤

⇒ 旧製剤の在庫がなくなり次第、変更とします。

⑤院外採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
スタリビルド配合錠(配合剤)	HIV 感染症治療剤
ヒューマログ N 注ミリオペン(ヒトインスリン)	インスリン製剤
アクセノン末(エトイン)	抗てんかん剤
シンメトレル錠 50mg(アマンタジン塩酸塩)	パーキンソン病治療剤
ドパゾール錠 200mg(レボドパ)	パーキンソン病治療剤
リポバス錠 20mg(シンバスタチン)	HMG-CoA 還元酵素阻害剤

⇒ 院外調剤薬局の在庫状況を判断した上で中止とします。

【院内新規試用医薬品】

(イブプロフェン)

▶イブプロフェン錠 100mg「タイヨー」 ②後

Ibuprofen 100mg/錠 [テバ]

〔薬価〕5 円/錠

【効】①下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛：関節リウマチ、関節痛及び関節炎、神経痛及び神経炎、背腰痛、頸腕症候群、子宮附属器炎、月経困難症、紅斑（結節性紅斑、多形滲出性紅斑、遠心性環状紅斑）

②手術並びに外傷後の消炎・鎮痛

③下記疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）

【用】(内) ①②成人：1 日量 600mg を 3 回に分けて投与する。小児：5～7 歳 1 日量 200～300mg、8～10 歳 1 日量 300～400mg、11～15 歳 1 日量 400～600mg を 3 回に分けて投与する。③1 回量 200mg を屯用する。1 日 2 回までとし、1 日最大 600mg を限度とする。空腹時の投与は避けることが望ましい。

(ラコサミド)

▶ビムパット錠 50mg ②劇

Vimpat 50mg/錠 [第一三共]

〔薬価〕215.6 円/錠

▶ビムパット錠 100mg ②劇

Vimpat 100mg/錠

〔薬価〕352 円/錠

【効】他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法

【用】(内) 1 日 100mg より投与を開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて増量し、維持量を 1 日 200 mg とし、1 日 2 回に分けて経口投与とする。症状により 1 日 400mg を超えない範囲で適宜増減するが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 100mg 以下ずつ行うこと。

(メサラジン)

▶リアルダ錠 1200mg

Lialda 1200mg/錠 [持田]

〔薬価〕212 円/錠

〔貯法〕冷所

【効】潰瘍性大腸炎（重症を除く）

【用】(内) 1 日 1 回 2,400mg を投与する。活動期は 1 日 1 回 4,800mg を投与する。

(リファキシミン)

▶リフキシマ錠 200mg

Rifaxima 200mg/錠 [あすか]

〔薬価〕201.9 円/錠

【効】肝性脳症における高アンモニア血症の改善

【用】(内) 1 回 400mg を 1 日 3 回食後に投与する。

(インスリングルラギン)

▶ランタス XR 注ソロスター 劇

Lantus XR 450 単位/キット [サノフィ]

〔薬価〕3,102 円/ キット

〔貯法〕禁凍結、2～8℃、遮光

【効】インスリン療法が適応となる糖尿病

【用】(注) 初期は 1 日 1 回 4～20 単位を皮下注射するが、他のインスリン製剤を併用することがある。注射時刻は毎日一定とする。その他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常 1 日 4～80 単位である。

(プロダルマブ)

▶ルミセフ皮下注 210mg シリンジ ②劇

Lumicef 210mg/筒 [協和キリン]

〔薬価〕73,158 円/筒

〔貯法〕2～8℃、遮光

【効】既存治療で効果不十分な下記疾患：尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症

【用】(注) 1 回 210mg を初回、1 週後、2 週後に皮下投与し、以後 1 週間の間隔で皮下投与する。

【製剤変更医薬品】

(オルメサルタンメドキシミル)

▶オルメテック OD 錠 10mg

Olmetec 10mg/錠 [第一三共]

〔薬価〕59.3 円/錠

▶オルメテック OD 錠 20mg

Olmetec 20mg/錠

〔薬価〕112.8 円/錠

▶オルメテック OD 錠 40mg

Olmetec 40mg/錠

〔薬価〕171.5 円/錠

【効】 高血圧症

【用】(内) 10～20mg を 1 日 1 回投与する。1 日 5～10mg から投与を開始し、1 日最大投与量は 40mg までとする。

(ミチグリニドカルシウム水和物)

▶グルファスト OD 錠 10mg

Glufast 10mg/錠 [武田]

〔薬価〕54.3 円/錠

【効】 2 型糖尿病

【用】(内) 1 回 10mg を 1 日 3 回毎食直前に投与する。

(ピタバスタチンカルシウム)

▶リバロ OD 錠 4mg

Livalo 4mg/錠 [興和]

〔薬価〕207.6 円/錠

〔貯法〕遮光

【効】 ①高コレステロール血症 ②家族性高コレステロール血症

【用】(内) ①1 回 1～2mg を 1 日 1 回投与する。

②成人：1 回 1～2mg を 1 日 1 回投与する。最大投与量は 1 日 4mg までとする。小児：10 歳以上には 1mg を 1 日 1 回投与する。最大投与量は 1 日 2mg までとする。

(デガレリクス酢酸塩)

▶ゴナックス皮下注用 80mg (劇)

Gonax 80mg/V [アステラス]

〔薬価〕24,370 円/V

▶ゴナックス皮下注用 120mg (劇)

Gonax 120mg/V

〔薬価〕29,958 円/V

【効】 前立腺癌

【用】(注) 初回は 240mg を 1 ヲ所あたり 120mg ずつ腹部に皮下投与する。2 回目以降は、初回投与 4 週

後より、80mg を維持用量とし、腹部 1 ヲ所に皮下投与し、4 週間間隔で投与を繰り返す。

(アダリムマブ)

▶ヒュミラ皮下注 40mg シリンジ 0.4mL (劇)

Humira 40mg/0.4mL/筒 [エーザイ]

〔薬価〕65,144 円/筒

〔貯法〕禁凍結、2～8℃、遮光

【効】 ①関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む） ②既存治療で効果不十分な下記疾患：(1) 尋常性乾癬、関節症性乾癬、(2) 強直性脊椎炎 (3) 多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 (4) 腸管型ベーチェット病 (5) 非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎 ③中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る） ④中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療（既存治療で効果不十分な場合に限る）

【用】(注) ①40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。効果不十分な場合、1 回 80mg まで増量できる。②(1) 初回に 80mg を皮下注射し、以後 2 週に 1 回、40mg を皮下注射する。効果不十分な場合には 1 回 80mg まで増量できる。(2) 40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。効果不十分な場合、1 回 80mg まで増量できる。(3) 15kg 以上 30kg 未満の場合は 20mg を、30kg 以上の場合は 40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。(4) 初回に 160mg を、初回投与 2 週間後に 80mg を皮下注射する。初回投与 4 週間後以降は、40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。(5) 初回 80mg を、初回投与 1 週間後に 40mg を皮下注射する。初回投与 3 週間後以降は、40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。③初回に 160mg を、初回投与 2 週間後に 80mg を皮下注射する。初回投与 4 週間後以降は、40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。効果が減弱した場合には 1 回 80mg に増量できる。④初回に 160mg を、初回投与 2 週間後に 80mg を皮下注射する。初回投与 4 週間後以降は、40mg を 2 週に 1 回、皮下注射する。

【銘柄変更医薬品】

(パロキセチン塩酸塩水和物)

▶パロキセチン錠 5mg「アスペン」 (後劇)

Paroxetine 5mg/錠 [アスペン]

〔薬価〕13.5 円/錠

▶パロキセチン錠 10mg「アスペン」 (後劇)

Paroxetine 10mg/錠

〔薬価〕37.9 円/錠

▶パロキセチン錠 20mg「アスペン」 (後劇)

Paroxetine 20mg/錠

〔薬価〕45.9 円/錠

【効】①うつ病・うつ状態 ②パニック障害 ③強迫性障害 ④社会不安障害 ⑤外傷後ストレス障害

【用】(内)①1 日 1 回夕食後、20～40mg を投与する。投与は 1 回 10～20mg より開始し、1 週ごとに 10mg/日ずつ増量する。1 日 40mg を超えない。②1 日 1 回夕食後、30mg を投与する。投与は 1 回 10mg より開始し、1 週ごとに 10mg/日ずつ増量する。1 日 30mg を超えない。③1 日 1 回夕食後、40mg を投与する。投与は 1 回 20mg より開始し、1 週ごとに 10mg/日ずつ増量する。1 日 50mg を超えない。④1 日 1 回夕食後、20mg を投与する。投与は 1 回 10mg より開始し、1 週ごとに 10mg/日ずつ増量する。1 日 40mg を超えない。⑤1 日 1 回夕食後、20mg を投与する。投与は 1 回 10～20mg より開始し、1 週ごとに 10mg/日ずつ増量する。1 日 40mg を超えない。

▶フリウエル配合錠 LD (後)

Frewell (配合剤) [持田]

1 錠中：	
ノルエチステロン	1mg
エチニルエストラジオール	0.035mg

〔薬価〕170.4 円/錠

〔貯法〕遮光

【効】月経困難症

【用】(内) 1 日 1 錠を毎日一定の時刻に 21 日間投与し、その後 7 日間休薬する。以上 28 日間を投与 1 週間とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29 日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。

(セボフルラン)

▶セボフルラン吸入麻酔液「ニッコー」 (劇)

Sevoflurane 250mL/ボトル [丸石]

〔薬価〕44.4 円/mL

〔貯法〕遮光

【効】全身麻酔

【用】(外) 導入：本剤と酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスとで導入する。睡眠量の静脈麻酔剤を投与し、本剤と酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスでも導入できる。本剤による導入は 0.5～5%で行うことができる。維持：酸素・亜酸化窒素と併用し、最少有効濃度で外科的麻酔状態を維持する。4%以下の濃度で維持できる。

(ドセタキセル水和物)

▶ドセタキセル点滴静注 20mg/1mL「ヤクルト」 (後毒)

Docetaxel 20mg/1mL/V [ヤクルト]

〔薬価〕8,527 円/錠

▶ドセタキセル点滴静注 20mg/1mL「ヤクルト」 (後毒)

Docetaxel 80mg/1mL/V [ヤクルト]

〔薬価〕29,802 円/錠

〔貯法〕遮光

【効】①乳癌、非小細胞肺癌、胃癌、頭頸部癌 ②卵巣癌 ③食道癌、子宮体癌 ④前立腺癌

【用】(注) ①1 日 1 回 60mg/m²を 1 時間以上かけて 3～4 週間間隔で点滴静注する。1 回最高用量は 75 mg/m²とする。②1 日 1 回 70 mg/m²を 1 時間以上かけて 3～4 週間間隔で点滴静注する。1 回最高用量は 75 mg/m²とする。③1 日 1 回 70 mg/m²を 1 時間以上かけて 3～4 週間間隔で点滴静注する。④1 日 1 回 75mg/m²を 1 時間以上かけて 3 週間間隔で点滴静注する。

▶ヒシファーゲン配合静注シリンジ 40mL (後)

Hishiphagen (配合剤) [ニプロ]

1 筒(40mL) 中：	
グリチルリチン酸	80mg
グリシン	800mg
L-システイン塩酸塩	40mg

〔薬価〕267 円/筒

【効】①小児ストロフルス、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、皮膚そう痒症、口内炎、フリクテン、薬疹・中毒疹 ②慢性肝疾患における肝機能異常の改善

【用】(注) ①1 日 1 回 5～20mL を静注する。②1 日 1 回 40～60mL を静注又は点滴静注する。増量する場合は 1 日 100mL を限度とする。